

団体名	神戸市教育委員会
-----	----------

**【事業概要】****1. 事業実施前の現状と課題**

神戸市には、通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒のために学校支援をする「こうべ学びの支援センター」と、特別な場において指導する「通級指導教室」（難聴・言語障害、自閉症・情緒障害、学校生活支援教員）があり、成果を上げている。そのため、特別支援学校の地域支援という視点では、地域への働きかけも、地域からのニーズも低いものであった。

一方、神戸市には、小学校で323学級、中学校118学級の特別支援学級【平成25年度】があり、特別支援教育の考え方の普及とともに、特別支援学級における児童生徒の実態把握や授業改善が強く求められるようになった。しかし、特別支援学校は、地域からのニーズの低さから、地域の特別支援学級への支援についても積極的にPRすることがなかった。校内で外部講師を招いての障害種に応じた専門的な研修を行ったり、授業改善（キャリア教育や重度重複の児童生徒の教育等の視点で）のための研修を行ったりしているが、地域の教育資源として主体的に地域に発信していなかった。

また、県立特別支援学校と市立特別支援学校の連携も十分にとれていない現状があった。神戸市教育委員会も、県教育委員会とセンター的機能について十分に共通理解しているとは言い難い状況であった。

そこで、今年度、神戸市においては、①「特別支援学校のセンター的機能検討会議」を開催し、特別支援学校のセンター的機能を地域の学校園に発信すること。②指定校4校において、外部人材等を活用し、資質向上や地域支援の在り方の研究に努めることとした。

**2. 事業を通じて得られた成果と課題****(1) 指定校の専門性向上の方策、専門性構築を図るための組織づくり、外部人材の配置・活用上の工夫等**

「特別支援学校のセンター的機能検討会議」を開催し、現在行われているセンター的機能を整理し、意味づけを行った。また、会議での話題を反映させたワーキング会議では「特別支援学校のセンター的機能活用ガイドブック」を作成し、特別支援学校の意識改革と地域の学校園への広報という二つの目的を果たした。会議では、特別支援学校は、スクールクラスターの中で①地域の学校の特別支援学級への支援②地域の学校園の障害のある児童生徒等への支援等を中心した地域支援を行うことを確認した。また、他の教育資源との間に支援に漏れがないように、平成26年度は「スクールクラスター連絡会議」を行う。この会議を通して、各特別支援学校は、地域支援部等一部の学校の役割のみがセンター的機能を担うのではなく、学校自体の資質を向上させることが地域支援につながることを、現在行っている研修や講座や日々の取組等を、地域支援を意識して行うことで「センター的機能の力」が向上することに気づいた。

4つの指定校においては、各学校の「特別支援学校のセンター的機能」についての取組に学校間格差があった。格差を埋めるために、意欲的な取組をしている学校の報告が他校の刺激になると考えられる。地域へのニーズ調査や先進校の視察等について発信し、他校にも広めていきたい。

また、「特別支援学校のセンター的機能」「通級指導教室」「こうべ学びの支援センター」の活用については、今年度学校園のための「教育資源を活用した支援のあり方」というリーフレットを作成した。

(2) 特別支援学校間のネットワーク作り、特別支援学校の地域別・機能別役割分担の工夫等  
「特別支援学校のセンター的機能活用ガイドブック」の内容は以下のとおりである。

①はじめに

②域内の教育資源の組合せについて

「特別支援学校」「こうべ学びの支援センター」「通級指導教室」を重要な教育資源と位置付けること

③特別支援学校のセンター的機能を活用しよう

主なセンター的機能の説明

教育相談・福祉、医療等との関係機関との連絡調整に関する支援や情報提供

小学校、中学校への支援・幼稚園、高等学校への支援

④特別支援学校のセンター的機能の活用のしかた

地域の学校園が主体的意図的に活用するために

P D C A サイクルで活用しよう

⑤相談内容の事例

地域の学校園が相談しやすいように事例を紹介

⑥教育相談の手順

⑦肢体不自由学級の巡回相談について

市立県立特別支援学校の支援を等しく学校園が受けられるように、「依頼書」を統一

⑧こんな時、どうする？

活用に関する具体的な Q A 集

⑨特別支援学校からのメッセージ

⑩支援マップ

通学区域別

障害種別

一目でどの学校に相談したら良いかがわかるマップを記載

⑪特別支援学校の連絡先

今後の予定としては、

① 域に対しては、平成 26 年 4 月の学校園長会や、特別支援学級担任者会等で広報する。

② 県立及び市立の特別支援学校の連携については、1 学期に連絡会を開催する。

③ 市立 6 校のセンター的機能向上については、年間 2 回連絡会を開催する。

以上の取組を通して、実践を重ね、センター的機能がより充実することを狙う。

(3) 都道府県教育委員会と市町村教育委員会間（国立附属特別支援学校と付属幼・小・中・高等学校及び公私立学校等間）の連携、地域内の小・中学校等からの相談・支援のニーズに対する工夫、小・中学校等において特別支援教育の中核となる教員の育成に向けた工夫等  
教育委員会間の連携については、県市の担当者による連絡調整やそれぞれのセンター的機能担当者の参加する連携協議会などが開催され、支援地域の分担や役割などを話し合った。  
引き続き、次年度に向けて連携協力するよう確認し合った。

地域内の小・中学校等からの相談・支援のニーズについては、今年度の先進的な取組をした学校の報告を、来年度市立 6 校の「センター的機能連絡会」で発信することで、他校に広め、ニーズの掘り起こしを行う予定である。

「特別支援学級」への支援を「特別支援学校」が、「通常の学級における発達障害のある児童生徒等」への支援を「通級指導教室」と「こうべ学びの支援センター」が主に行うと役割を分担したことで、研修内容も整理しやすくなった。来年度は、特別支援学級担任を対象に、

特別支援学校のセンター的機能を活用して「パワーアップ研修」を実施する計画を立てた。今後も計画的な研修計画に取り組む。

### 3. 解決策（次年度の取組等）

神戸市において、今年度は、意識改革の1年となった。来年度は、今年度の取組を広報普及するための年である。そのため、以下の取組を行う。

- ・特別支援学校は、「学校園のための特別支援学校のセンター的機能活用ガイドブック」を活用し、主体的に現在の学校での取組や本事業と地域支援を結びつけて、教育活動を行う。そのために1学期に「特別支援学校センター的機能県市連絡会」、2～3学期に市立6校の「センター的機能連絡会」を行い、地域支援のための情報交換を行う。
- ・地域の学校園は、「学校園のための特別支援学校のセンター的機能活用ガイドブック」を活用し、PDCAサイクルで主体的にセンター的機能を活用する。
- ・「スクールクラスター連絡会議」を開催し、「特別支援学校のセンター的機能」「通級指導教室」「こうべ学びの支援センター」の活用が有機的に行われるための整理を行い、また、その結果を地域の学校園に発信する。さらに、保護者向けのリーフレットを作成する。
- ・県教育委員会とは、神戸市以外の市町に対する施策だけでなく、神戸市も含めた県内の全ての学校園への支援が充実できるよう、協議を重ねていく。また、私立幼稚園や高等学校に対する支援が、対応する内容によって支援に差があるため、支援の求めに対して関係機関・部局と連携して、整備を進める。

#### 【推進地域及び指定校一覧】

推進地域	指定校	
神戸地域	1	神戸市立盲学校
	2	神戸市立友生支援学校
	3	神戸市立青陽東養護学校
	4	神戸市立青陽須磨支援学校